

投稿

本当に自己を愛するものが

他人に親切が良くせる (釈迦)

ボランティア活動に参加して

「さわやか」ボランティア 野上 教子

一年前の阪神大震災でたくさんの方が、ボランティアで活躍されました。その時「ボランティアって立派そうに言われるけど、結局、人に感謝されたいとか、自己満足じゃないの」と言う人がいて、その言葉は随分長い間私の心の中に引懸かっていました。確かに人に感謝された時の

喜びというのは、自己の幸福感の原因になり、仕事を終えた時の達成感も自己の幸福感の原因となるわけですから、よく考えてみると、結局、自分が幸福になる手段としてボランティアに参加しているという見方もあろうかと思えます。そう考えて迷っている時に

新聞の片隅にその答えを見つけた事ができました。釈迦の説かれた話です。「いかなるものも、自分自身ほど愛しいものはいない。だからこそ、私たちは他の生命を傷つけてはならない。他人に親切をつくすのは、相手が喜んでくれるからではない。生命の歡喜があふれ、生命の中心「信」

の輝きに胸中(心)が満たされるからで、本当に自己を愛し、自分がかわいいものが他人のために損得計算を離れた親切が良くせるのだ」引用が少し長くなりましたが、これを読んだ時、私の全ての迷いは消えてなくなりました。

今、私は機会に恵まれて、患者さんの送迎ボランティアに参加させていただいています。過にたった一度、一時間患者さんと一緒です。日本海の寒風にさらされて重油と格闘しているたくさんの方々のボランティアの方々に比べたら本当に小さな小さな行為ではありますが、

ですが、これから先一回でも多く続けることが私自身の幸福の追求になると思っています。仕事、家事、子供、年配の親、いろいろな事に取り囲まれ、追いかけてたり追いかけてられたり、生活の渦の中に翻弄されているわけですが、ボランティアそのものがこの生活の中に溶け込んで私の人生の一部となれば、それが一番幸せだと思っております。

第二回役員会

新しい方針を決定

まず日田で研修会を!

去る一月十九日十時より、さわやかの事務所、第二回役員会を開催しました。

(正月休み除く)になりました。ボランティアさんも少しずつ増え、現在四四名になっています。利用状況は別表。

さわやか発足から三ヶ月が経過したところで、一定の総括をし、今後の方針を決定しました。総括としては、ボランティアの皆さんに支えられ順調に推移していることが確認されました。送迎回数は毎月増えつつ、一月は九五回

は年二回で、春秋はレクリエーションを兼ねて郊外で、梅雨時に、講師を招き本格的学習を行うことを決めました。又、一月末には、北九州市保健福祉局より、さわやかに

別紙チラシにあるように、桜の花満開の四月六日に、第一回の研修・交流会を開催します。詳細はチラシを参照してください。研修は小倉第一病院で看護部長をされていると同時にボランティアもされている栗本裕氏に「透析医療

について」講演をしてもらいます。往きのバスの中の講義ですが、ご静聴よろしくお願致します。山陽館到着、昼食は屋形船で豪華な御馳走をいただきます。屋形船は岸に係留したまま、川には出ません。(船酔いすると困るので)入浴をして、余った時間を古い家並豆田町を散歩し人形の家や田舎味本舗などを見学し、複路は高速道路を一気に北九州に帰ります。多くの方の参加を希望します。

通院介護の利用状況

各地区別ボランティアと利用者数 1997年1月19日現在

	一般	患者	家族	スタッフ	合計	利用者
門司区	3	2	1	0	6	2
小倉北区	9	2	1	1	11	3
小倉南区	6	2	2	0	10	3
戸畑区	1	1	0	0	2	2
八幡東区	1	1	0	0	2	4
八幡西区	3	2	1	1	7	12
若松区	0	1	1	0	2	2
遠賀郡	1	0	0	0	1	2
荻田町	1	0	0	0	1	0
合計	25	11	6	2	44	30

送迎回数

10月	30回
11月	81回
12月	91回

